

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設置者である理事長の想いを生かしつつ、それぞれのユニットのリビングと玄関にホームの理念と介護理念が掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を理解し、地域との共生の中でケアに取り組んでいる様子が見えた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夕涼み会などのホームの行事には地域住民にも声かけはしているが、地域の行事や集会に足を運んだり参加するまでに至っていない。	○	ホームの行事に地域住民を招待したり声かけすることは大切だが、ホーム側から積極的に地域行事に利用者と参加するなど出かけていく姿勢も期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が中心にまとめているが、他の職員も確認している。また、外部評価の意義も職員全員が理解できていることがヒヤリング等で確認できた。		

宮崎県宮崎市田野町グループホーム あげぼの苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度の運営推進会議は4か月に1回開催されているが、その記録がなかった。サービス向上のための運営推進会議が定期的または効率的になされていない。	○	2か月に1回のペースで、ホームのサービスの向上や利用者の生活向上のために開催してほしい。また、委員も地域の声を取り込めるように地域住民の参加を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者との連絡調整は運営者を中心に行っており、サービス向上のための連絡や相談ができている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族あてに月1回発行しているホームの通信では、利用者の様子や行事がよく伝わっている。また、個別には来訪時や電話での連絡・報告ができている。金銭出納簿についてもよく管理され、家族によるサインや押印で確認ができている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで家族からの苦情や意見箱への投書はない。家族の意見は来訪時に聞くように努めており、家族とのコミュニケーションもよく取れている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の混乱を招かないためにユニット間の職員異動はない。全職員はどちらのユニットの利用者でも把握できるように努めていることがヒヤリングで確認できた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は内・外部の研修会にも積極的に参加できている。また、その報告を職員会議の中で行っている記録もあり、研修資料も添付されていた。他の職員が閲覧したサインもある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長や施設長は他の同業者との交流や連絡を取るように心がけているが、管理者や他の職員はそのような機会が取れず、新しい知識や情報等の共有が不十分な状況にある。	○	めまぐるしく制度が変わっていく昨今、管理者や介護職員も他の同業者との交流や情報交換を積極的に図り、質の向上に生かす機会づくりを行ってほしい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームの雰囲気になじんでもらうため何回か通ってもらいなど、利用者の不安がないような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごす時間を大切にしながら、できる限り本人に寄り添う時間を作る努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いをかなえるための時間作りや業務のあり方を検討している。また、職員は時間を見ながらその意向に沿えるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者2人に1人の担当者がおり、アセスメントや介護計画の作成などケアマネジャーと連携しながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しや、モニタリングの結果に応じた見直しができている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の際の送迎や付き添いをホームの職員が行っており、柔軟な対応により利用者のニーズに応えることができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれかかりつけ医がおり、ホームもかかりつけ医との連携を図っている。また、嘱託契約により近隣の医療機関でも適切な医療支援が受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期支援の例がないが、これまで常に理事長や施設長を含めて、職員全員で今後の課題として話し合いや研修がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	トイレ介助をはじめ利用者一人ひとりに対する声かけはさりげなく行われ、プライバシーが守れるように職員全員が意識を持って支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になりがちで、利用者の日々のニーズや生活のリズム、またはそのペースに合わせた支援ができていないという実感が職員の中に存在している。また、A棟とB棟の交流や自由な移動が、仕切りドアの施錠によってできていない。	○	職員は日々の日課にこだわらず、利用者のペースで支援していけるように、日課や業務の見直しや効率化を図るための協議を進めていただきたい。

宮崎県宮崎市田野町グループホーム あげぼの苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片づけを利用者と職員が一緒に行い、食事は同じものを食べながら、さりげない介助の中に和やかにそしてにぎやかに食事を楽しむ支援ができていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日課の中では午後入浴にしているが、利用者のニーズに沿って、夜間でも対応は可能であり、職員はそのニーズに応えることができるよう準備がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニットごとに共用空間にはカラオケセットやテレビが置かれ、本棚には興味をそるような雑誌も置かれていた。また、利用者がいつでも遊ぶことができる道具も、すぐ手の届くところにあった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員体制や利用者の重度化などにより、日常的な外出ができておらず利用者のニーズにもすぐに応えることができていない。	○	さまざまな課題もあるが、近隣への散歩やドライブなど、意図的に計画したり、臨機応変に対応できるような取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠していないが、A棟とB棟の仕切り戸は利用者の混乱をさけるため施錠してある。	○	徘徊や無断外出などの問題もあるが、施錠せずに利用者が生活できるための方法や、施錠しないことが当たり前のことを意識的に持てるような取り組みを期待したい。

宮崎県宮崎市田野町グループホーム あげぼの苑

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を年2回行っているが、地域への呼びかけや協力の要請はされていない。またその記録がない。	○	災害のための訓練は定期的に行い、利用者の避難誘導など実践的な訓練も必要ではないかと思われる。また、地域への呼びかけや協力もお願いしながら災害対策の充実を図ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A棟・B棟それぞれ異なった献立で別メニューとなっており、それぞれの特色ある食事の支援がなされている。また、医師の食事せんにも対応し、ボランティアの栄養士に月1回の指導を受けている。食事や水分摂取の記録も個別に取っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼ホールをはじめ利用者の共用スペースは、日時が分かるように時計やカレンダーがあり、トイレや浴室の場所がわかりやすく表示してある。また、採光も良好で、安心して過ごせる空間作りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の個性に合わせて工夫しており、使いなじんだものや仏壇などを持ち込んであったり、家族などの写真も貼られていて生活観のある居室になっていた。		

※  は、重点項目。